

株式会社 出雲東郷電機 環境経営レポート

2024年度 《対象期間：2024年4月1日～2025年3月31日》



ごあいさつ

東郷電機グループは、1974年3月に、鳥取県東伯郡湯梨浜町（旧、東郷町）に於いて創業し、現在、国内3拠点・中国1拠点でスイッチ・コネクタの生産、生産設備および検査設備の設計／製作、部品加工などの事業を行っています。出雲東郷電機は、ご縁を頂き、産業機器向けスイッチ生産の基幹工場として2014年4月に島根県出雲市に於いて創業しました。



代表取締役社長
前田 和雄

当社の原点は、東郷電機グループの創業者が制定した社是・経営理念の精神であり、一人ひとりが仕事を通して人間力を高め、仕事の質、製品の質を高めることで、「お客様に喜んで頂ける（＝社会へのお役立ち）」を追求すること。また、「人の和」を大切に、真に協力し合える集団となり、自分たちの会社を自分たちで良くし、自分たちの幸せを追求していくことです。

グローバル競争の激化、生産年齢人口の減少、環境問題など私たちを取り巻く環境は変化し、取り組むべき課題は山積していますが、元気に、明るく、楽しく、「新しいものづくり」・「新しい価値創出」への挑戦を続けています。

社是

人の和を愛し、会社を愛し、勤めを愛す

経営理念

仕事によって自己を磨き

品質によって会社を伸ばし

事業によって自分に報いる

その中で、環境問題については、地球温暖化、廃棄物の増加、資源エネルギーの枯渇など、問題が深刻化しています。

環境保全と企業活動の両立は、企業の果たすべき重要な役割であり、当社は、創業の2014年にエコアクション21を認証取得するとともに、2014年以降、環境負荷軽減の取り組みを進めています。

これまで、本業での生産性改善による省エネ、品質改善による廃棄物量の削減、全社員への意識醸成を図りながらの電灯・空調の省エネや廃棄物の3Rの取り組み、省エネ仕様の電灯・空調等の機器への更新などを進めてきました。

また、2020年4月からは、NTTアノードエナジー様のオンラインサイト型電力供給が稼働し、当社へのグリーン電力の供給が開始されました。これにより、当社のグリーン電力化率は36%となるとともに、二酸化炭素排出量は、前述の取り組み成果も合わせて、2024年度は、2014年度比で、48%削減する事が出来ました。

当社は、持続可能な社会の構築に向け、環境保全と企業活動の両立への更なる挑戦を続けていきます。

株式会社 出雲東郷電機

代表取締役社長 前田 和雄

組織概要と対象範囲

5 ジェンダー平等を実現しよう

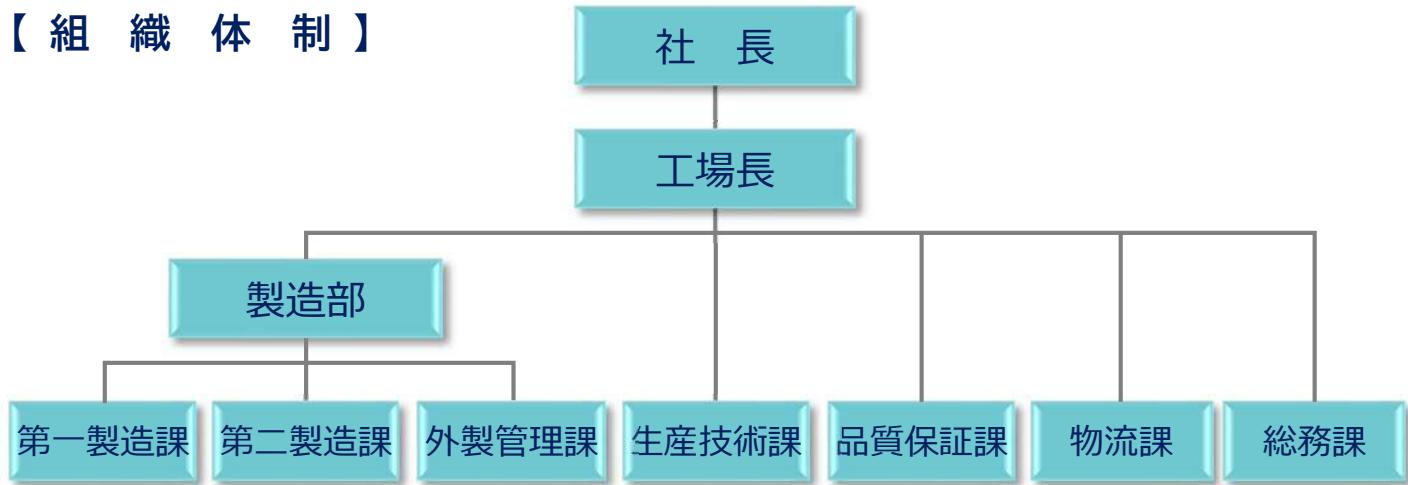


8 働きがいも経済成長も



- 【社名】 株式会社 出雲東郷電機
- 【事業内容】 産業機器用スイッチの組立・検査
- 【創業】 2014年4月1日
- 【代表取締役社長】 前田 和雄
- 【従業員】 社員104名（男性29名、女性75名）
（2025年10月1日時点）
- 【製品出荷額】 9億8200万円 （2024年度）
- 【認証・登録の対象範囲】 当社で行う全活動、全組織

【組織体制】



● 女性活躍も進んでいます！

* 女性 管理職比率17%（女性課長1名／課長・部長6名）

* 女性 役職者比率60%（女性主任6名／主任・係長10名）

● 『育児と仕事の両立』『介護と仕事の両立』を支援しています！

* 育児休業取得 100%（2024年度 男性1名、女性2名）

* 育児短時間勤務取得（現在）4名

* 介護休業取得 1名（2024年度実績）

● 18～70歳社員が元気に活躍中です！

【生産ラインナップ】



基本(マイクロ)スイッチ



セーフティスイッチ



押しボタンスイッチ

東郷電機グループ



環境経営方針

基本理念

当社は、環境問題の保全が企業活動における重要課題と認識し、当社が環境に与える影響を社員一人一人が自主的に、継続的に低減するための環境活動に取組み、自然環境との調和と地域社会との共生を目指します。

方針

1. 環境保全活動として、次の事を重点課題として取組みます。
 - (1) 二酸化炭素排出量削減のため、電力・化石燃料等のエネルギーの有効利用と、太陽光などの自然エネルギーの効果的利用を進めます。
 - (2) 循環型社会形成のため、廃棄物の削減とリサイクルの推進に取組みます。
 - (3) 限りある資源の有効活用のため、生産効率向上と不良率削減に取組みます。
2. 環境経営目標を設定し、定期的にその効果を評価し、必要に応じて見直しを行うと共に継続的改善に取組みます。
3. 環境関連の法規制を遵守します。
4. 地域社会との調和を目指して社会貢献活動の推進を行います。
5. 環境への取組みを環境経営レポートにまとめ公表いたします。

制定日 2014年 4月 1日
改定日 2021年 4月 1日

株式会社 出雲東郷電機
代表取締役社長 前田 和雄

実施体制

社長

2024年7月16日改定

工場長

環境管理責任者

環境事務局

製造部

第一製造課

第二製造課

外製管理課

生産技術課

品質保証課

物流課

総務課

役割

社長

- ◆環境経営に関する統括
- ◆環境経営システムの実施及び管理に必要な資源の準備
- ◆環境経営実施体制の構築
- ◆環境管理責任者の任命
- ◆経営における課題とチャンスの明確化
- ◆環境経営方針の策定・見直し
- ◆環境経営システムの評価と見直し

工場長

- ◆社長不在時の代行

環境管理責任者

- ◆環境経営システムの構築と運用管理
- ◆環境推進委員会の委員長
- ◆環境活動の取組結果の社長への報告

環境事務局

- ◆環境管理責任者の補佐
- ◆環境経営システムに関する事務
- ◆環境監視数値の集計
- ◆環境関連の外部コミュニケーションの窓口
- ◆内部環境監査の実施準備

各課部門長

- ◆自部門における環境経営システムの実施
- ◆自部門に関連する環境経営計画の実施・達成状況の確認
- ◆自部門に関連する問題点の発見、是正、予防処置

各課環境推進委員

- ◆自部門の環境経営計画を課内で推進
- ◆自部門の環境経営実績を記録し部門長へ報告
- ◆内部環境監査の実施（内部監査員）

各課課員（全社員）

- ◆環境経営方針を理解し、環境活動の重要性を自覚
- ◆自主的かつ積極的な環境活動への参加

【補足】

※ 環境関連文書類の責任・権限については、環境関連文書管理規程に従う

2014年度(創業)～2024年度 取り組みの成果・課題

●二酸化炭素排出量の削減

2014年度～継続：照明の間引き、未使用時の照明の電源OFF、空調機の省エネ運転徹底

2016年度：外灯(水銀灯)の点灯時間短縮

2017年度：コンプレッサー4号機の更新と自動運転プログラム変更

2018年度：物流棟1階の空調機を省エネタイプへ更新、外灯(水銀灯)をLED化

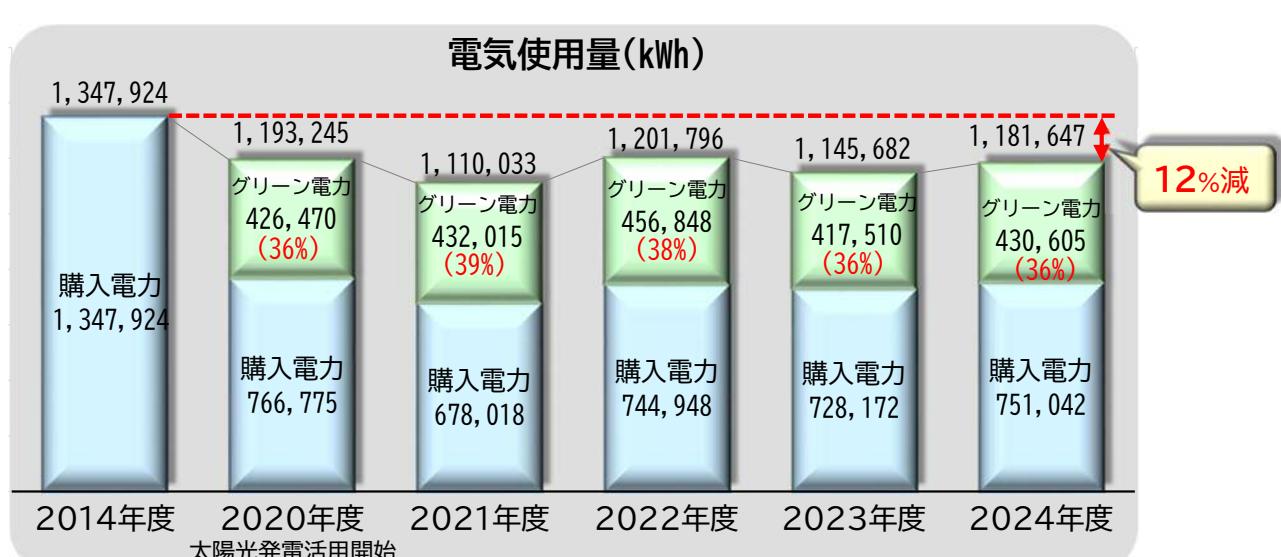
2019年度：食堂棟・3号館連絡通路の空調機を省エネタイプへ更新

2020年度：太陽光発電の活用開始、2号館事務所・会議室照明のLED化、1号館・2号館会議室の空調機を省エネタイプへ更新

2021年度：3号館・2号館ロビー照明のLED化、3号館・物流棟2階北側の空調機を省エネタイプへ更新

2022年度：2号館生産エリア・事務所の空調機を省エネタイプへ更新、1号館生産エリア・2号館2階生産エリア照明のLED化、コンプレッサー1号機を更新

2023年度：2号館1階生産エリア・1号館西側のLED化





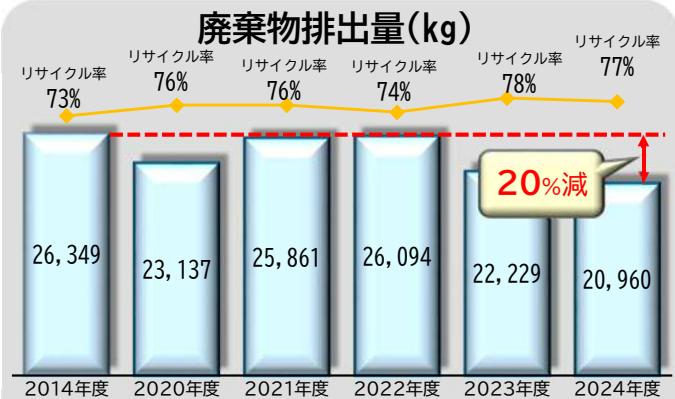
●廃棄物排出量の削減

2014年度～継続：

分別の徹底、再資源化の推進、
生産性改善・品質改善による
廃棄量削減

2019年度～継続：

段ボール納入からオリコン納入へ
変更の取り組み



●水使用量の削減

2014年度～継続：節水の徹底

2018年度：食堂トイレを

節水タイプへ更新

2020年度：1号館・3号館のトイレを
節水タイプへ更新

2021年度：2号館トイレを
節水タイプへ更新



●取り組みの成果・課題

2014年度から、本業での生産性改善による省エネや全社員への意識醸成を図りながらの照明・空調の省エネ、省エネ仕様の照明・空調への更新などの取り組みにより、2019年度まで徐々に二酸化炭素排出量を減らしてきました。そして2020年度からの太陽光発電の活用開始により更に加速し、併せて継続的な省エネ活動も行った結果、2024年度は、2014年度比で、二酸化炭素排出量は約48%減となりました。

2025年3月時点で空調機の約90%の更新が完了、照明のLED化は約67%が完了しています。

廃棄物排出量については、創業以来継続的に行っている3Rの実施により、2024年度の廃棄物排出量は2014年度比で20%減、リサイクル率は77%となっています。

水使用量についても、2018年度～2021年度の4年間でトイレの節水型への更新を行い、加えて継続的な節水の取り組みにより、2024年度は、2014年度比で水使用量47%減となりました。

2022年度以降、会社生活・日常生活において一人ひとりの環境保全活動を促進する取り組みとして環境推進委員会を通じた啓発活動を行いました。今後はSDGsとの関連性を意識して、更に強化していく必要があります。また、本業の生産性・品質改善による環境負荷低減に取り組みは、引き続き継続して行って行きます。

環境経営目標と実績・評価(2024年度)

項目名	2023年度	2024年度			2024年度実績評価
	実績数値	目標	実績	目標と実績の差	
1.二酸化炭素排出量の削減 (※1)(※2)	455.9 t-CO ₂	452.0 t-CO ₂	479.8 t-CO ₂	27.8 t-CO ₂	電気・ガス共に、第1四半期は生産量が少なく使用量も少なかったのですが、第2四半期以降の生産量の回復に伴い使用量が増えました。特に今夏の猛暑で空調の稼働率が高く、かつ10月まで暑さが続いたため、通年で目標未達となりました。 二酸化炭素排出量は上期の太陽光発電力バー率が昨年度より高く、第3四半期までは目標を達成していましたが、冬季になって太陽光力バー率が下がった事と、電力・ガスの使用量が増えた事で、通年では目標未達となりました。
1-① 電気使用量の削減	114.6 万kwh	113.4 万kwh	118.2 万kwh	4.8 万kwh	※太陽光発電力バー率 上期 23年度42.0%→24年度47.6% 下期 23年度29.7%→24年度26.4% 年間 23年度36.4%→24年度36.4%
1-② 化石燃料使用量の削減 (液化石油ガス[LPG])	13,290.2 m ³	13,290.2 m ³	15,164.3 m ³	1,874.1 m ³	第1四半期は生産量が少なく排出量も目標の80%程度と少なかったのですが、第2四半期以降、生産量の回復に伴い排出量がほぼ目標値程度となりました。 特に段ボールは部品支給方法の変更により、第2四半期までは大きく排出量が減っていましたが、第3四半期からのセーフティの増産影響で排出量が増えました。 四半期ごとに増減はあったものの、通年では一般廃棄物は目標達成、産業廃棄物も対目標値の+1%未満でほぼ目標達成となりました。
2.廃棄物排出量の削減	22,229.4 kg	22,229.4 kg	20,960.1 kg	▲1,269.3 kg	第1四半期は生産量が少なく排出量も目標の80%程度と少なかったのですが、第2四半期以降、生産量の回復に伴い排出量がほぼ目標値程度となりました。 特に段ボールは部品支給方法の変更により、第2四半期までは大きく排出量が減っていましたが、第3四半期からのセーフティの増産影響で排出量が増えました。 四半期ごとに増減はあったものの、通年では一般廃棄物は目標達成、産業廃棄物も対目標値の+1%未満でほぼ目標達成となりました。
2-① 一般廃棄物排出量削減	16,458.1 kg	16,458.1 kg	15,175.8 kg	▲1,282.3 kg	第1四半期は生産量が少なく水使用量も目標の94%と少なかったのですが、第2四半期以降の生産量の回復に伴い、目標値程度の使用量となりました。 第2四半期後半から実施している、トイレ・手洗い・洗濯の節水の取組の効果で、第3四半期以降、生産量は回復傾向でしたが、引き続き水使用量は目標達成し、通年でも目標達成となりました。
2-② 産業廃棄物排出量削減	5,771.3 kg	5,771.3 kg	5,784.3 kg	13.0 kg	
3.水使用量の削減 (水道水の使用量削減)	1,450.5 m ³	1,450.5 m ³	1,351.5 m ³	▲99.0 m ³	
4.化学物質使用量の把握 (PTR制度に該当する第一種指定化学物質の使用量を把握)	24.7 kg	別に定める化学物質管理規定によって適正管理を行う	88.2 kg	別に定める化学物質管理規定によって適正管理を行う	2023年度第4四半期から組み立てを開始した新機種が、2024年度に入って生産量が増えた事から、新機種で使用する溶剤の使用量が増え、2024年度から化学物質使用量が大幅増加しました。それ以外の機種での使用量は例年程度でした。今後の使用量は年間約90kg程度となる見込みですが、1,000kg未満なので問題はありません。
5.自らが生産・販売・提供する製品の環境性能の向上及びサービスの改善 (廃部品の廃棄金額削減) 対象:リミットスイッチ	61,759 円/月	29,566 円/月	29,566 円/月	±0 円/月	慢性的な設備トラブル箇所を製造部と生産技術課の共同でメンテを実施し、更に老朽化箇所の部品交換等を実施した結果、11月以降、廃棄が大幅に低下し、目標達成しました。

(※1) 二酸化炭素排出量の目標値にはガソリン・軽油使用による二酸化炭素排出量を含む。ただし、2023年度ガソリン購入量は約550リットルで二酸化炭素排出量の割合は全体の0.2%、2023年度軽油購入量は23リットルで二酸化炭素排出量の割合は全体の0.1%未満と、ガソリン・軽油共に少量である事から環境経営目標の対象外とする。

(※2) 購入電力の二酸化炭素排出係数については、2023年度中国電力調整後排出係数「0.511kg-CO₂/kWh」を使用
ただし、購入電力の内約40%は太陽光発電電力になる見込みの為、電力使用量目標値の約60%に係数をかけて二酸化炭素排出量を算出している。(太陽光発電電力比率は2023年度実績より算出した結果を用いている)

2025年度以降の環境経営目標

項目名	2025年度		2026年度		2027年度	
	増減率	目標数値	増減率	目標数値	増減率	目標数値
1. 二酸化炭素排出量の削減 (※1)(※2)	▲0.8 %	476.1 t-CO ₂	▲1.6 %	468.6 t-CO ₂	▲1.0 %	463.7 t-CO ₂
1-① 電気使用量の削減	▲1.0 %	117.0 万kWh	▲2.0 %	114.7 万kWh	▲1.3 %	113.2 万kWh
1-② 化石燃料使用量の削減 (液化石油ガス[LPG])	前年度実績維持	15,164.3 m ³	前年度実績維持	15,164.3 m ³	前年度実績維持	15,164.3 m ³
2. 廃棄物排出量の削減	前年度実績維持	20,960.1 kg	前年度実績維持	20,960.1 kg	前年度実績維持	20,960.1 kg
2-① 一般廃棄物排出量削減	前年度実績維持	15,175.8 kg	前年度実績維持	15,175.8 kg	前年度実績維持	15,175.8 kg
2-② 産業廃棄物排出量削減	前年度実績維持	5,784.3 kg	前年度実績維持	5,784.3 kg	前年度実績維持	5,784.3 kg
3. 水使用量の削減 (水道水の使用量削減)	前年度実績維持	1,351.5 m ³	前年度実績維持	1,351.5 m ³	前年度実績維持	1,351.5 m ³
4. 化学物質使用量の把握 (PTR制度に該当する第一種指定化学物質の使用量を把握)	別に定める化学物質管理規定によって適正管理を行う					
5. 自らが生産・販売・提供する製品の環境性能の向上及びサービスの改善 (廃部品の廃棄金額削減) 対象:リミットスイッチ	廃製品・廃部品の排出量削減について環境経営計画にて計画設定して取り組む					

(※1) 二酸化炭素排出量の削減の目標値にはガソリン・軽油使用による二酸化炭素排出量を含む。ただし、2023年度ガソリン購入量は約550リットルで二酸化炭素排出量の割合は全体の0.2%、2023年度軽油購入量は23リットルで二酸化炭素排出量の割合は全体の0.1%未満と、ガソリン・軽油共に少量である事から環境経営目標の対象外とする。

(※2) 購入電力の二酸化炭素排出係数については、2023年度中国電力調整後排出係数「0.511kg-CO₂/kWh」を使用
ただし、購入電力の内約40%は太陽光発電電力になる見込みの為、電力使用量目標値の約60%に係数をかけて二酸化炭素排出量を算出している。(太陽光発電電力比率は2023年度実績より算出した結果を用いている)

環境経営計画(2024年度取組・評価、2025年度取組計画)

No.1 二酸化炭素排出量の削減

2020年度からの太陽光発電の活用や、空調機の省エネタイプへの更新、照明のLED化、継続的な省エネ活動により、実績は2014年度比で約48%の削減となりました。太陽光発電での電力カバー率は前年同等の36%で、二酸化炭素排出量の削減に大きく貢献しています。

No.1-① 電気使用量の削減

2024年度計画	2024年度の取組内容・評価	2025年度計画
<ul style="list-style-type: none">◆コンプレッサーの稼働時間削減とエア漏れの削減◆設備待機電力の削減◆不要な照明のこまめな消灯などの節電の取り組み◆空調の適正温度管理	<ul style="list-style-type: none">◆コンプレッサー電源OFF当番表により、最終退出者による休日の運転停止運用を継続実施しました。◆コンプレッサーのエア漏れ点検をし、発見箇所の修繕を行いました。◆不要な電気のこまめな消灯、空調の適正温度管理等、継続的活動も引き続き実施しました。◆2024年度は、猛暑で空調の稼働率が高くなり電気使用量が増加し、売上1万円あたりの評価は悪化しています。	<ul style="list-style-type: none">◆モールド室照明のLED化◆物流棟照明のLED化◆コンプレッサー稼働時間削減◆エア漏れ削減◆不要な照明のこまめな消灯などの節電の取り組み◆空調の適正温度管理の継続

No.1-② 化石燃料使用量の削減

2024年度計画	2024年度の取組内容・評価	2025年度計画
<ul style="list-style-type: none">◆空調の適正温度管理	<ul style="list-style-type: none">◆引き続き空調の適正温度管理を行いました。◆2024年度は、猛暑で空調の稼働率が高くなり電気使用量が増加し、売上1万円あたりの評価は悪化しています。	<ul style="list-style-type: none">◆空調の適正温度管理の継続

No.2 廃棄物排出量削減

2024年度計画	2024年度の取組内容・評価	2025年度計画
<ul style="list-style-type: none">◆廃棄物の分別徹底◆3Rの取組	<ul style="list-style-type: none">◆引き続き、廃棄物の分別徹底と3Rの取り組みを行いました。	<ul style="list-style-type: none">◆廃棄物分別徹底の継続◆3Rの取組の継続

No.3 水使用量削減

2024年度計画	2024年度の取組内容・評価	2025年度計画
<ul style="list-style-type: none">◆手洗い等での節水の徹底	<ul style="list-style-type: none">◆引き続き、節水の徹底を行いました。◆2024年度下期からトイレ・手洗い・洗濯での節水を強化しました。	<ul style="list-style-type: none">◆手洗い等での節水の徹底



(二酸化炭素排出量推移)



(電気使用量推移)



(LPG使用量推移)



(廃棄物排出量推移)



(水使用量推移)



環境への取り組み

脱炭素社会の実現に向けて

脱炭素社会の実現に向けた取り組みとして、太陽光発電を活用、省エネ設備への更新、電力使用量のデマンド監視等に取り組んでいます。

太陽光発電の活用

グリーン電力化率36%
CO2排出量 約350t-co2／年削減

省エネ設備への更新

- 蛍光灯のLED化(屋内照明)
- 水銀灯のLED化(屋外照明)
- 空調
- コンプレッサー

電力使用量の デマンド監視 & ピーク電力の引下げ (空調稼働時間調整等)

太陽光発電の活用

2020年4月から、NTTアノードエナジー様のオンサイト型電力供給により、太陽光発電の活用を進めています



- 当社使用電力の36%を
太陽光発電活用(2024年度実績)
- CO2排出量
約350t-co2／年削減
(2019年度:2024年度比較)

稼働開始 : 2020年4月1日
設置面積 : 約6,700m²
パネル枚数 : 約1,500枚
年間発電量 : 約60万kWh

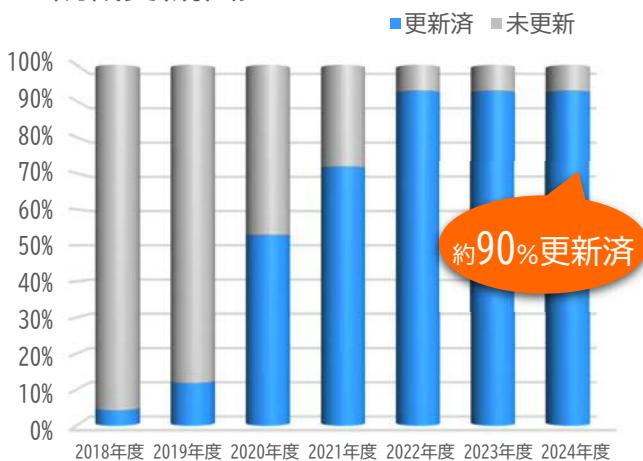


空調機更新

空調機の老朽化に伴い、計画的に空調機の更新を進めています。

2018年度からの5年で当社の主な空調機を設置エリアの空調機更新を実施し、2024年度末時点で約90%の更新が完了しています。今後も順次更新を進めています。

空調機更新推移



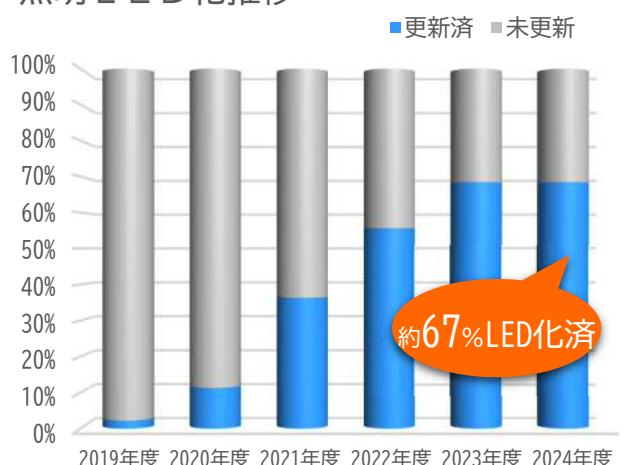
照明のLED化

2014年度（創業時）時点で、約1,800台あった蛍光灯照明のLED化を、2020年度以降、エリア毎に進めています。

2024年度末時点で、全体の約67%がLED化出来ました。

2025年度は約300台の更新を予定しており、2025年度末には全体の約83%のLED化が完了する予定です。

照明LED化推移



空調の適正温度管理

空調の設定温度基準を見直し、全エリアのリモコンに基準を貼って、空調の適正管理を意識付けしています。

2023年度からは冷房の基準を24℃から1℃上げ、冷房25℃～28℃、暖房20℃～23℃で運用しています。

また、環境推進委員会で勉強会を実施し、環境推進委員から各課社員へ意識付け強化を実施しました。



環境への取り組み



トイレ改修

2018年度から順次トイレを節水型に更新し、2021年度には構内全てのトイレが節水型になりました。手洗いもセンター式にして、節水に取り組んでいます。

構内全てが
節水型



廃棄物の分別徹底

廃棄物を24種類に分別し、OA紙・段ボールや金属はリサイクルし、軟質プラスチックは圧縮固化し燃料として再利用されています。



節水の取り組み

手洗いの蛇口をエコ設定にしたり、トイレや手洗いに表示をするなど、節水に取り組んでいます。



清掃活動

毎年、会社周辺道路のゴミ拾いを実施しています。

2024年度も5月31日に実施しました。活動を通じて環境保全への意識を向上する事が出来ました。



エコキヤップ回収

2017年11月から取り組んでいるエコキャップ活動は、活動が定着をし、累計で430kg-co2の二酸化炭素排出量を削減しました。



環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

No.	運用される法規制	運用される事項 【施設・物質・事業活動等】	実施状況／遵守確認	遵守 状況
1	廃棄物の処理及び清掃に関する法律 【法第12条、法12条の2】	産廃業者・特管物業者との契約	契約変更なし 許可証の写しを確認	○
2	危険物の規制に関する規則 【第39条の3、第44条】	危険物の品名、危険等級、危険物の最大数量、「火気厳禁」を表示	再少量危険物貯蔵所の現場を確認	○
3	廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行規則 【第1条の5、第8条】	600mm×600mm以上の以下内容の掲示板 ・保管する産業廃棄物の種類 ・保管の場所の管理者の氏名又は名称及び連絡先	再生資源置場、 少量危険物貯蔵所の現場を確認	○
4	フロン類の使用の合理化及び管理の適正化に関する法 【法第16条】	全ての機器は四半期に1回以上簡易点検を実施する 7.5kW以上50kW未満のエアコンは3年に1回以上業者にて定期点検	年4回6月、9月、12月、3月に簡易点検を実施 3年に1回業者の定期点検は対象無	○

違反等の遵守状況の評価

環境関連法規等の遵守状況を確認した結果、違反はありませんでした。

【2025年3月27日確認】

また、創業以来11年間にわたって保健所等関連機関からの違反の指摘及び、地域住民等の利害関係者からの訴訟はありませんでした。

代表者による全体評価と見直しの結果

生産活動が企業主体である当社においては、本業での生産性改善や品質改善の取り組みが重要です。引き続き、本業改善と環境改善を連動させて取り組んでいきます。

地球温暖化など社会課題に対する危機意識の高まりの中で、持続可能なよりよい世界を目指すため、SDGsの取り組みの重要性は高いと考えます。昨年度はSDGsと当社の環境保全への取り組みとの関連を整理しました。SDGsは、学生さんや若手の関心も高いと想定され、今後は、環境経営レポートのほか、ホームページや会社案内も活用しての外部発信など、進めていきます。

LED化や空調更新の投資についても、計画に従って順次検討し進めています。

生産の増減産があると環境負荷の評価が適切に出来ない為、引き続き原単位（売上当り）での実績把握・評価を行い、改善につなげていきます。

[会社紹介]改善の取り組み

お客様ニーズ (QCD) への対応

多品種少量のセルラインから自動機生産ラインまで多岐にわたるものづくりを保有しています。

お客様ニーズ (QCD) への対応に向けて、徹底 3 S 活動、Good Cycle活動（小集団活動）、技術開発や改善取り組みを進めています。



多品種少量セルライン



少品種中量自動機ライン

徹底 3 S活動

「安全な職場づくり・快適な職場づくり・能率的な職場づくり」を目的に徹底 3 S 活動（整理・整頓・清掃）に取り組んでいます。

具体的な取り組みとしては、

- ・定期清掃の実施（清掃対象毎に清掃頻度を決定。毎朝／毎週／毎月）
- ・徹底 3 S 基準に基づく現場整備
- ・定期職場巡回によるチェック（職制巡回、徹底 3 S 委員会巡回）

などに取り組み、職場改善を進めるとともに、「約束を守る人・感性の高い人・前向きに考える人」づくりを進めています。



定期清掃



徹底 3 S 職場巡回



Good Cycle活動

Good Cycle活動は、正社員全員が参加する改善活動で、創業の2014年から継続しています。部門単位のチーム（現8チーム）が半期で実行するテーマを設定し改善を進め、年2回（9月・3月）報告会を開催しています。上位3チーム（金賞・銀賞・銅賞）には副賞を添えて表彰を行っています。



改善報告会

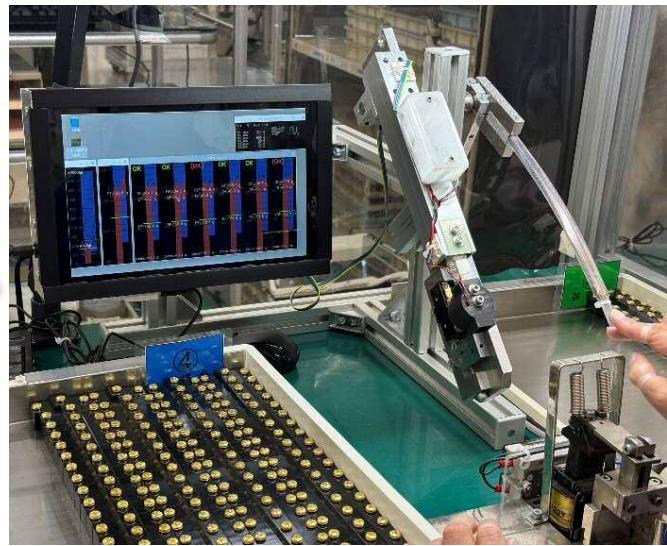


上位チームへの表彰

素人化を目指した技術開発

基本スイッチには超高感度タイプがあり、数ミクロンの動作特性を調整する作業があります。自動化が困難で、熟練者による手作業に委ねる状況でした。誰でも作業することができる「素人化」をコンセプトに、極小特性を計測できる高精度で作業性も良くローコストな測定器をRaspberry Pi（ラズベリーパイ）を活用して自社開発し現在稼働中です。

新人作業者の習熟期間短縮が図れています。



【会社紹介】改善の取り組み

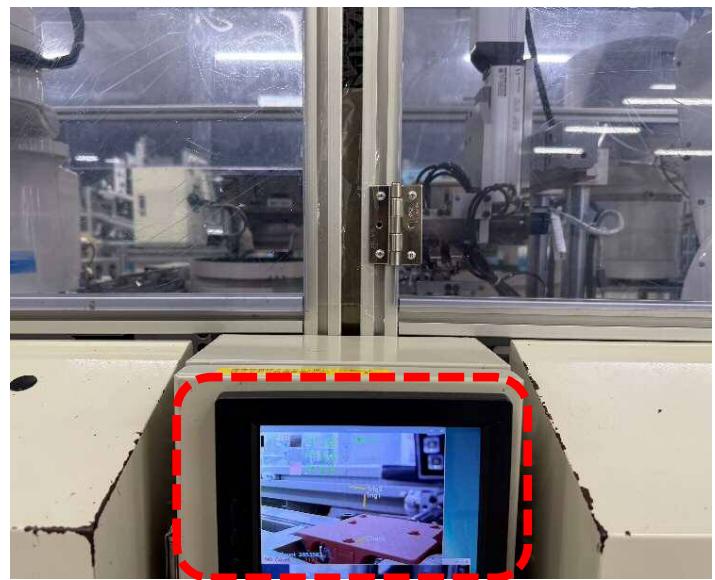
画像検査の活用

製造プロセスの各工程では品質ゲートを設け、製品が品質基準を満たしていることを確認しています。

従来、目視で検査していた作業の作業支援カメラへの置き換えや、Raspberry Pi (ラズベリー パイ)を活用した画像検査の自社開発・追加設置により、品質管理強化・生産性向上を図っています。



市販の作業支援カメラの活用



Raspberry Pi (ラズベリー パイ)を活用した画像検査

協働ロボットの導入

2020年から、人と協調して“働く”、オムロン(株)の協働ロボットを導入し、これまで人手で行っていた作業の一部を自動化することで、人手不足の解消、作業ミスの防止、生産能力の改善を図っています。現在2台の協働ロボットが稼働中です。各種センサの設置により、「人が近づくと動きを遅くする」、「人が触ると緊急停止する」といった安全機能が備わっています。



オムロン(株) 協働ロボット



設備製作

当社生産で使用する中型・小型設備の製作にも取り組んでいます。当社で生産しているからこそ分かっている作業負担、難い作業・困りごとの改善内容を設備仕様へ反映し品質・生産性改善へ繋げています。また、設備製作を通じて、生産技術者のスキルアップを図っています。



カラクリ発想による技術力の強化

機能的でローコストな自動化を目指し、「カラクリ技術」を活用した、自動機への部品供給、包装工程での包装箱の蓋開け・取扱説明書の供給などの改善を行い、生産性向上を図っています。

これらの改善事例・成果は、ものづくり企業の多くが参加する「からくり改善くふう展」に出展・紹介し、当社の技術力を評価してもらうと同時に、これまで入手出来なかった大手企業などのアイデアを直接確認し、生産技術者のスキルアップに繋げています。



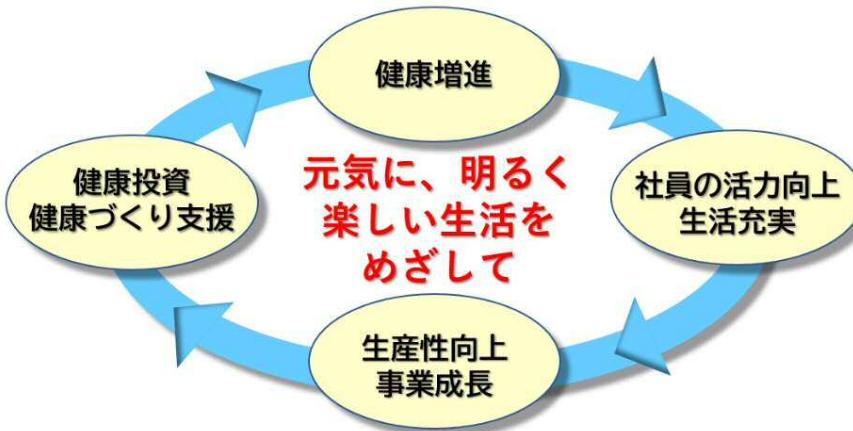
カラクリ技術を活用した
自動機への部品供給



からくり改善くふう展2024 出展
2024年11月13日(水)～14日(木)

●取り組みの目的・思い

- ・今働いている社員に健康で長く働いて欲しい
- ・仕事をする以前に健康でなければ人生そのものが楽しくない
- ・社員が心身ともに健康でいてこそ会社は発展する



2024年8月健康セミナー

●健康セミナーの定期開催

- 2022年6月：講師 中国労働衛生協会様
「健診結果を活かした健康づくり」
- 2023年9月：講師 山陰ヤクルト販売様
「睡眠チェックで健康管理」
- 2024年8月：講師 全国健康保険協会様
「食べる力は生きる力」



乳がん、子宮頸がんの検診バスを会社へ配車

●がん検診の強化

定期健康診断（生活習慣病検診）に合わせて、がん検診を強化・実施しています。

<がん検診の強化・実施>

- ・前立腺がん検査（腫瘍マーカー検査）
- ・乳がん、子宮頸がんの検診バスを会社へ配車

●定期健康診断 有所見者への再受診フォロー強化

有所見者への再受診フォローを実施し、再受診率は100%を継続しています。

●健康行動の強化

2022年5月～：ラジオ体操 就業時間前・任意参加から就業時間内・全員参加へ変更

2022年10月：各自が設定した健康行動の達成に向けた取り組みイベント実施

2024年2月～：健康アプリ『サントリープラス』導入
※健康タスクの意識づけ・習慣化

2024年10～11月：ウォーキングイベント
2025年6～7月：ウォーキングイベント

<健康経営優良法人> (中小規模法人部門)

2022年～4年連続で認定



発行日 2025年10月24日

発行者 株式会社 出雲東郷電機

環境管理責任者 山崎 晃一

担当者(事務局) 大村 美恵子

所 在 地 島根県出雲市西林木町626-1

連 絡 先 TEL: 0853-23-1811

FAX: 0853-24-8121



稻佐の浜 *photo by M. I*

かみありづき
『神在月』

それは、出雲だけが許された旧暦十月の呼称。

全国から八百万の神々が出雲にお集りになり、縁結びや五穀豊穣、無病息災など生きとし生けるものにとって大切な事柄について話し合いをなされると伝えられています。

全国各地から出雲に集まってこられた八百万の神様たちは、旧暦 10 月 10 日夕刻（新暦：2025 年 11 月 29 日）出雲大社の西方 1 km にある稻佐の浜での「神迎神事」で迎えられます。

翌日の旧暦 10 月 11 日（新暦：11 月 30 日）から旧暦 10 月 17 日（新暦：12 月 6 日）までの 1 週間は出雲大社で過ごされ、神在祭が行われています。

そして、旧暦 10 月 26 日（新暦：12 月 15 日）に出雲市斐川町の方九千神社より神々はそれぞれの国へ還されると伝えられています。